

# 知恵 知ってこ生活の知恵

暮らしのアドバイス No.139

ファイナンシャル プランナー 仲西 康至 (音江町在住)



昨年より、新型コロナウイルスの蔓延が私たちの生活や健康に大きな影響を及ぼしています。しかし、生命に関わる病気として忘れてはいけないのは「がん」ではないでしょうか。公益財団法人「生命保険文化センター」の「生活保障に関する調査(速報版)」によると、民間の生命保険会社や各共済で取り扱っている「がん保険(及びがん特約)」の加入率は42.6%(令和元年度)です。平成22年度の同調査では33.1%でしたので、10%近く数値が伸びており、およそ2.3人に1人は「がん保険(及びがん特約)」に加入をしていることになります。「日本人の3人に1人はがんになる」と言われており、新型コロナウイルスよりもはるかに脅威です。

一般に、「がん」の治療は長期化することから、既婚で子どもが独

## 女性こそ「がん」の備えは必要!



り立ちしていない世代や、ローン付きのマイホームを持つ世帯など、万が一の時のリスクの大きい人の加入率が高い傾向にあります。一方、「がん保険(及びがん特約)」の男女別加入率を見てみると、男性43.2%・女性42.2%と、ほとんど男女差はありません。

とくに近年、女性の社会進出が広がり、共稼ぎが増えたことで、女性の加入率の増加が目立っています。女性は社会に出ることで、ストレスも増加しています。「がん」は、遺伝で左右されるだけではなく、ストレスや日常生活の乱れの影響も大きいからです。女性の喫煙率の上昇は、ストレスの増加を現していると言えます。

さらに、女性は子宮や卵巣、乳房に関わる特有の病気を持ち合わせています。たとえば、乳がんは40歳代からリスクが高まり50歳代がピークとなり、およそ10人に1人は乳がん(上皮内がんを含む)を罹患しています。子育て中の女性は、「がん」を罹患したとき家族に与える影響は、ご主人よりも大きいと言えます。このことから、女性こそ「がん」に対する備えは必要と言えるのかもしれませんが、自分の為ではなく、家族のための備えであることを忘れてはいけません。